

開発経済論特修 ¹

城西大学大学院経済学研究科 内田真人²

2000年5月

¹石川滋「開発経済学特修」城西大学大学院経済学研究科，1998-2000年前期まで。

²E-mail:webmaster@mupn.com

目次

第 I 部	先進国と途上国の成長模型	4
第 1 章	システム転換—フェルトマン模型を超えて	5
1.1	序論	5
1.1.1	目的	5
1.1.2	問題	5
1.2	体制移行をとらえる参照枠組	5
1.3	集権的物動的計画経済の仕組み—フェルトマン模型	5
1.3.1	フェルトマン模型の構造	5
1.3.2	フェルトマン模型の隠された貨幣的側面	6
1.3.3	参考 フェルトマン=ドーマー模型	7
1.4	市場経済的貯蓄・投資・成長型—ネオケインジアン模型	10
1.4.1	ハロッド・ドーマー成長式	10
1.4.2	成長実績による模型の転換の検討	10
1.5	経済システム改革の進展	10
第 2 章	初期条件と途上国のタイポロジー	11
2.1	講義の目的と骨子	11
2.2	問題	11
2.3	タイポロジーの基準	11
2.4	5つの暫定的グループ	11
第 II 部	ルイス成長模型と中国	13
第 3 章	ルイス模型と転換点	14
3.1	問題	14
3.2	ルイスの二重経済模型	15
3.3	ルイスの成長トラップ—1950年代から70年代まで	16
3.4	農業生産の“突破”と“転換点”—1980年代および90年代	16
3.5	構造転換の不確定要因	16
第 4 章	Ricardian の成長トラップ・モデルとそのアジア型	17
4.1	リカードー・モデルの構造	17
4.2	アジア型農業の構造とトラップ	18

4.3	ルイスの二重経済型経済開発モデル	19
第5章	”郷鎮企業”と農村工業化	20
5.1	序論	20
5.2	郷鎮企業の概要	21
5.3	農業の”突破”と農村工業化	22
5.4	労働配分と労働移動	23
5.5	郷鎮企業の生産性・財務成績	23
5.6	市場機構と党・政府の役割	23
5.7	農村工業化の産業・規模構造的考察	23
5.8	結語	24
第6章	対外開放と国内発展	25
6.1	問題—5つの作業仮説	25
第7章	中国：21世紀への展望	27
7.1	はじめに	27
7.2	経済開発：やりとげたこと、やり遺したこと	27
7.3	経済システム	28
第III部	ミント成長模型とタイ	29
第8章	ミントの「余剰の吐け口」理論—一次産品輸出国の形成	30
8.1	講義の目的と骨子	30
8.2	問題	31
8.3	V-Sモデル	31
8.4	Stage-setting	31
8.4.1	国民経済の特徴	31
8.4.2	不完全利用労働・余剰資源(耕地)の存在のメカニズム	31
8.5	Play	32
8.5.1	Dynamic factor の出現(発展のトリガー)	32
8.5.2	小農の New Wants の発生:労働供給の変化	32
8.5.3	land frontier の拡大—輸出	32
8.5.4	パート・タイムの生産からフル・タイムの生産へ	32
8.5.5	land frontier の消失と発展の終焉	32
第9章	タイ：一次産品輸出国の形成	34
9.1	問題意識	34
9.2	米輸出経済の形成と発展	34
9.2.1	初期条件と開発トリガー	34
9.2.2	国内発展の過程	34
9.2.3	戦後の状況	34

9.3	マイナー・エクスポートの出現（スイッチング）	34
9.4	工業化へ	34
9.5	全過程の分析的まとめ	34
9.5.1	スタイライゼーション	34
9.5.2	モデル化	34
第 10 章	V・S・モデルの工業的局面について	35
10.1	モデルの骨子	35
第 11 章	タイ：工業化へ	38
11.1	近代工業の条件—繊維・縫製加工業のケース	38
11.2	タイ・繊維産業の生成	38
11.3	タイ・繊維産業の発展	38
付 録 A	開発経済論特修 — 講義要覧	39